

障害のある児童・生徒のキャリア教育

指導部主任指導主事 市川 裕 二

現在、子供たちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力が求められています。こうした力の育成に向けては、日々の教育活動においてキャリア教育の充実を図る必要があります。

今回のスクラムでは、「障害のある児童・生徒にとってのキャリア教育」に関する記事を掲載しました。

東京都教育委員会は、「東京都特別支援教育推進計画 第三次実施計画」の基本的考え方の一つに、「自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進」を掲げています。障害の有無にかかわらず、自立と社会参加に必要な知識・技能や働く意欲などを育てることは学校教育の使命であり、とりわけ障害のある人々の自立と社会参加は、共生社会の実現に向けて重要な意義があります。

障害のある児童・生徒のキャリア教育においては、進学や就労といった進路先の決定のみにとらわれず、自分でできることを増やしていこうとする意欲や態度、周囲の人と適切なコミュニケーションを図り、仲間と協力するなどの人間関係の形成に関する能力などを、小・中学校の段階から一貫して育ていくことが重要です。

今回の記事が、児童・生徒一人一人に応じたキャリア教育を各学校で推進・充実させていくための一助になることを期待します。

目次

- 平成26年度学力調査結果より（2） 2
- 特別支援教育の窓 5
- 「わく(Work) わく(Work)Week Tokyo(中学生の職場体験)」発表会が開催されます 6

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にいただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、順次「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

学び応援ページを御活用ください！

**東京ベーシック・ドリルも
掲載しています！**

東京都教育委員会ホームページ・トップページ
の下の方に、このバナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

平成 26 年度 学力調査結果より（2）

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析から授業改善へ

東京都教育委員会は、今年度の「全国学力・学習状況調査」「児童・生徒の学力向上を図るための調査（都独自の調査）」の結果等について公表しました。今回は「児童・生徒の学力向上を図るための調査（都独自の調査）」の概要、結果分析等について紹介します。

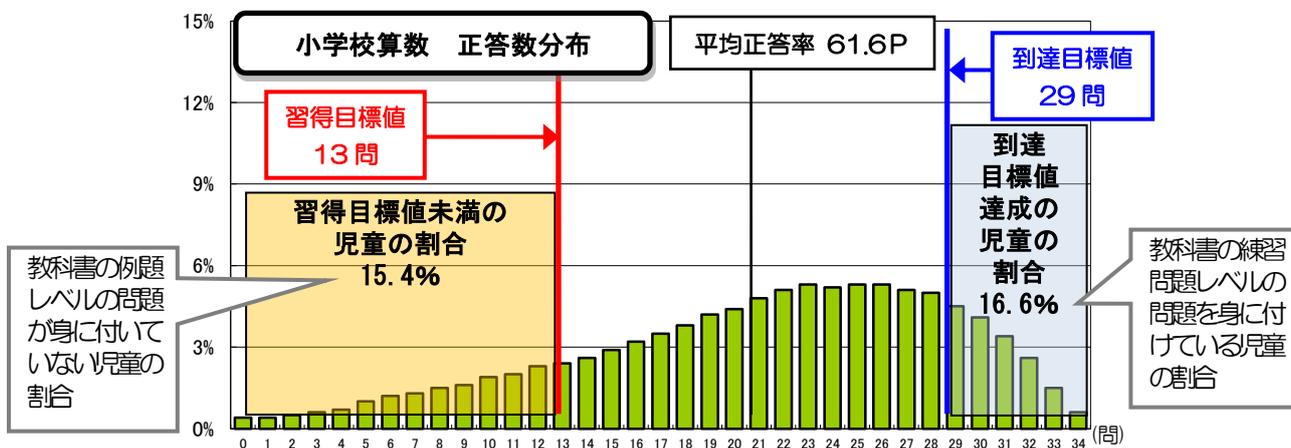
【平成 26 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」概要】

- (1) 調査日時
平成 26 年 7 月 3 日（木）
- (2) 調査対象
小学校第 5 学年 1,298 校 90,529 名
中学校第 2 学年 629 校 74,823 名
- (3) 調査内容
 - ①教科に関する調査〔教科の内容・読み解く力〕（国語、社会、算数・数学、理科、英語）
 - ②学習に関する意識調査
 - ③学校に関する調査

【結果の分析】



今年度、「教科書の練習問題レベルまでの問題数」を **到達目標値（青線）** として設定しました。また、東京ベーシック・ドリルにおいて、全ての単元の例題レベルの問題を扱っている小学校算数については、「教科書の例題レベルの問題数」を **習得目標値（赤線）** として、具体的な課題を明らかにしました。各教科の到達目標値を達成している児童・生徒の割合は、表のとおりです。



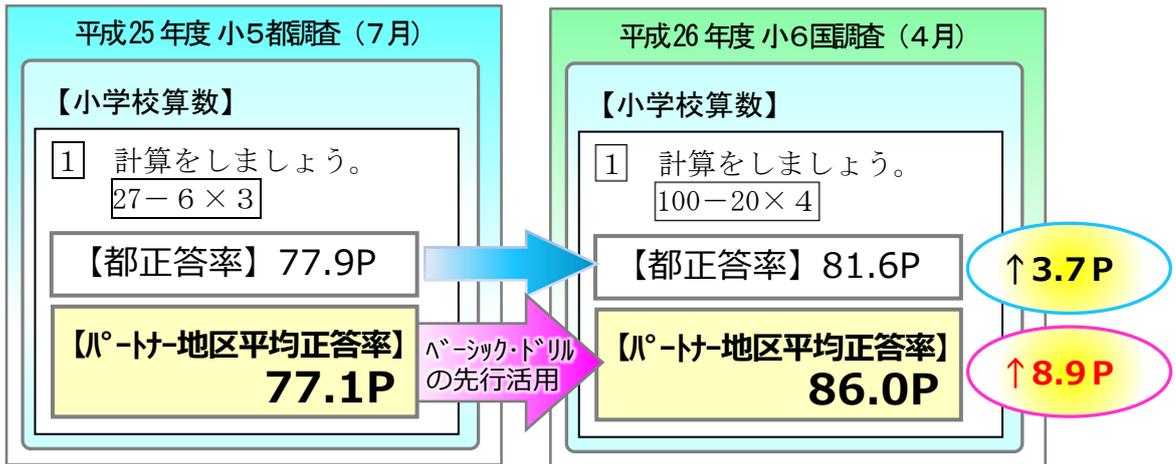
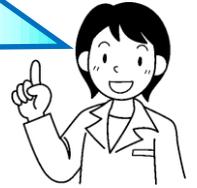
【各教科の平均正答率・到達目標値・達成の割合】

小学校	平均正答率	到達目標値	達成の割合	中学校	平均正答率	到達目標値	達成の割合
国語	74.1P	19/22 問	33.6%	国語	59.8P	20/28 問	37.3%
社会	69.7P	22/26 問	29.0%	社会	56.1P	22/31 問	30.0%
算数	61.6P	29/34 問	16.6%	数学	53.1P	22/29 問	23.1%
理科	65.4P	20/27 問	41.4%	理科	50.8P	20/28 問	19.9%
				英語	53.6P	25/29 問	9.1%

【課題と方策】

課題① 習得目標値に達していない児童・生徒をいかに減少させるか

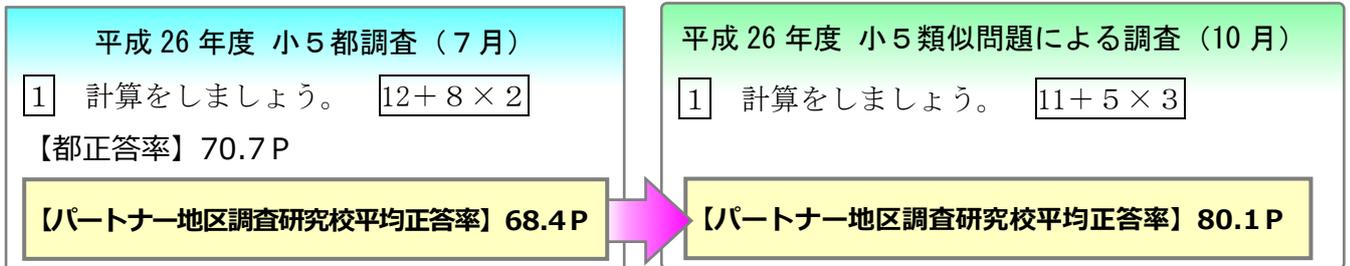
習得目標値（教科書の例題レベルの問題）は、東京ベーシック・ドリルの問題と同程度の、全員がクリアしていかなければならない数値です。下は、同一児童による学力調査結果を比較したものです。計算のきまりに関する問題ですが、昨年度から東京ベーシック・ドリルを先行活用して繰り返し学習を行った、パートナー地区の平均正答率の伸びが、都全体に比べて大きいことが分かりますね。



※パートナー地区…平成25・26年度学力向上パートナーシップ事業指定地区
詳しくはスクラムNo.43を御覧ください。



パートナー地区で行った同じ年度内の調査でも、立ち戻る指導や、繰り返しの指導を強く意識して行うことで、改善が図られていることが分かります。



できなかった問題をそのままにせず、つまずいた問題と同じ（又は同程度の）問題に取り組みさせることで、できるようにさせていくことが大切です。

習得目標値を全員にクリアさせるには、つまずきの状況を正しく把握して、個に応じた問題に取り組みさせることが必要です。東京ベーシック・ドリルの診断シートなどを活用し、個々の学習の定着状況を確認して進めていきましょう。



【調査結果
個人票】

◆問題ごとの結果 ⇒ 「1」は「正しく答えられた問題」、「0」は「まだできていない問題」または「記入がなかった問題」です。

【学習の仕方】
①下の表で「0」になっている問題の番号のらんを、色でぬりましょう。
②個人票とは別に貼られる「まちがえてしまったときの復習のポイント」にも、下の表で「0」になっている番号のらんを色でぬり、復習をしましょう。
③復習が終わったら、次のように「0」になっている番号のらんをぬりましょう。

国語	2	社会	1	算数	3	理科	1
1	1	1	1	1	1	1	1
2	1	1	1	1	1	1	1
3	1	1	1	1	1	1	1
4	1	1	1	1	1	1	1
5	1	1	1	1	1	1	1
6	1	1	1	1	1	1	1
7	1	1	1	1	1	1	1
8	1	1	1	1	1	1	1
9	1	1	1	1	1	1	1
10	1	1	1	1	1	1	1
11	1	1	1	1	1	1	1
12	1	1	1	1	1	1	1
13	1	1	1	1	1	1	1
14	1	1	1	1	1	1	1
15	1	1	1	1	1	1	1
16	1	1	1	1	1	1	1
17	1	1	1	1	1	1	1
18	1	1	1	1	1	1	1
19	1	1	1	1	1	1	1
20	1	1	1	1	1	1	1
21	1	1	1	1	1	1	1
22	1	1	1	1	1	1	1
23	1	1	1	1	1	1	1
24	1	1	1	1	1	1	1
25	1	1	1	1	1	1	1
26	1	1	1	1	1	1	1
27	1	1	1	1	1	1	1
28	1	1	1	1	1	1	1
29	1	1	1	1	1	1	1
30	1	1	1	1	1	1	1
31	1	1	1	1	1	1	1
32	1	1	1	1	1	1	1
33	1	1	1	1	1	1	1
34	1	1	1	1	1	1	1

★下の表は、学習する必要がある「東京ベーシック・ドリル」です。くり返し練習してください。

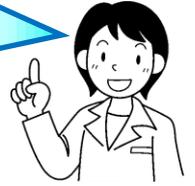
国語	2	社会	1	算数	3	理科	1
1	1	1	1	1	1	1	1
2	1	1	1	1	1	1	1
3	1	1	1	1	1	1	1
4	1	1	1	1	1	1	1
5	1	1	1	1	1	1	1
6	1	1	1	1	1	1	1
7	1	1	1	1	1	1	1
8	1	1	1	1	1	1	1
9	1	1	1	1	1	1	1
10	1	1	1	1	1	1	1
11	1	1	1	1	1	1	1
12	1	1	1	1	1	1	1
13	1	1	1	1	1	1	1
14	1	1	1	1	1	1	1
15	1	1	1	1	1	1	1
16	1	1	1	1	1	1	1
17	1	1	1	1	1	1	1
18	1	1	1	1	1	1	1
19	1	1	1	1	1	1	1
20	1	1	1	1	1	1	1
21	1	1	1	1	1	1	1
22	1	1	1	1	1	1	1
23	1	1	1	1	1	1	1
24	1	1	1	1	1	1	1
25	1	1	1	1	1	1	1
26	1	1	1	1	1	1	1
27	1	1	1	1	1	1	1
28	1	1	1	1	1	1	1
29	1	1	1	1	1	1	1
30	1	1	1	1	1	1	1
31	1	1	1	1	1	1	1
32	1	1	1	1	1	1	1
33	1	1	1	1	1	1	1
34	1	1	1	1	1	1	1

今年度の都調査結果の個人票には、つまずいた問題に応じた東京ベーシック・ドリルの項目が記載されています。

再度確認し、できなかった問題に取り組みせるとよいですね。

課題② 到達目標値に達する児童・生徒をいかに増加させるか

到達目標値（教科書の練習問題レベルの問題）は、達成することが期待される数値です。到達目標値を超える児童・生徒の割合を増やすためには、「読み解く力」に関する問題を活用し、児童・生徒の思考力を育む指導を行うことが大切です。下の例は、最も正答率の低かった中学校英語の問題です。



【読み解く問題の構成と考察】

① 必要な情報を正確に取り出す力

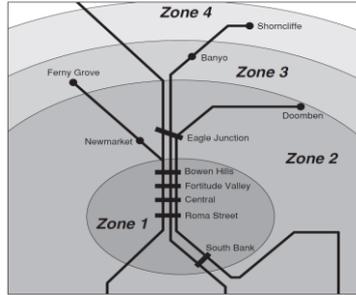
●情報を取り出すことができた児童・生徒のうち、4割ほどは、情報の共通点・相違点等を捉えることに課題がある。

② 比較・関連付けて読み取る力

○比較・関連付けて読み取ることができた児童・生徒は、それらを活用して、問題を解決することが概ねできている。

③ 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力

10 オーストラリアにホームステイしているヒロミは、ボーウェン・ヒルズ駅から、友達の家最寄りの駅までの運賃について駅員に質問しています。



* Zones travelled	* Adult		* Concession			
	Go Card	* ticket	Go Card	ticket		
		off peak		off peak		
Zone 1	\$3.28	\$2.63	\$4.80	\$1.64	\$1.32	\$2.40
Zones 1 and 2	\$3.85	\$3.08	\$5.60	\$1.93	\$1.54	\$2.90
Zones 1 to 3	\$4.56	\$3.65	\$6.70	\$2.28	\$1.83	\$3.40
Zones 1 to 4	\$5.13	\$4.11	\$7.50	\$2.57	\$2.06	\$3.80

Hiromi: Excuse me. I need some help.
 駅員: Sure. How can I help?
 Hiromi: My friend lives in Shorncliffe. How much is a ticket for Shorncliffe?
 駅員: Are you a student?
 Hiromi: Yes, I am. I am a student.
 駅員: OK, then you can look under "concession".
 Hiromi: What does "concession" mean?
 駅員: It means "for old people or for students".
 Hiromi: OK. Concession... Which zone is it?
 駅員: Here is Shorncliffe.
 Hiromi: ...Zone 4. OK. I can look for "Zones 1 to 4". What is "off-peak"?
 駅員: "Off-peak" means from ten in the morning to two in the afternoon.
 Hiromi: What time is it now?
 駅員: It is half past three.
 Hiromi: Half past three?
 駅員: Look. Thirty *minutes after three o'clock.
 Hiromi: I see. It isn't "off-peak" now.
 駅員: That's right. Do you have a "Go Card"? It gives *discount *prices. You can buy one.
 Hiromi: I don't have that card. How much is it?
 駅員: It's \$5.
 Hiromi: Well ..., I don't need one.
 駅員: So the price will be .
 Hiromi: Thank you very much for your help.
 駅員: That's all right.

① ヒロミが駅員に時刻をたずねたとき、駅員は何時何分と答えましたか。

【正 答】 3時30分

【正答率】
28.3P

② A に入る値段はいくらですか。

【正 答】 \$ 3 . 8 0

【正答率】
15.6P

③ 別の日の午後1時30分に、ヒロミはGo Cardを使って、ボーウェン・ヒルズ駅からニューマーケット駅まで電車で行くことにしました。このときの運賃はいくらですか。

【正 答】 \$ 1 . 5 4

【正答率】
12.2P

「読み解く力」に関する問題の分析から、必要な情報を正確に取り出す作業はできても、その情報同士を比較したり、関連付けたりして思考することに課題があることが分かっています。その情報のもつ意味を考えさせ、理解させる指導を行うことが大切です。



各校に配布しています報告書に記載の「授業改善のポイント」などを参考に、日々の授業改善への取組をしていきましょう。「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果については、東京都教育委員会ホームページの、[学び応援ページ](#) → [確かな学力](#) → [調査の実施及び調査結果・報告書](#) で、より詳しく見ることができます。ぜひ御参照ください。

「特別支援教育の窓」

—全ての学校で実施する特別支援教育の推進を目指して—

特別な支援が必要な児童・生徒のキャリア教育を進めるために

特別な支援が必要な児童・生徒のキャリア教育

小・中学校における特別な支援が必要な児童・生徒のキャリア教育においては、将来の自立と社会参加につながるよう、児童・生徒一人一人の実態に応じて、自分でできることを増やしていこうとする意欲や態度をはぐくみ、自らの生き方を主体的に考え、進路を適切に選択できる能力や態度を育成することが重要です。

そのためには、学校の教育活動全体で扱うことが効果的であり、様々な学習場面で、キャリア教育に関する内容を関連付けて指導することが大切です。

小・中学校における学習内容の例

学習内容の例

- ・ 身近で働く人々に興味・関心をもつ。
 - ・ 憧れとする職業や将来の夢をもつ。
 - ・ 自分の長所や短所を理解する。
 - ・ 自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む。
- ・ 挨拶、返事などの基本的な生活習慣を身に付ける。
 - ・ 分からないことを調べたり、質問したりする。
 - ・ 相手の考えを聞き、相手の立場に立って考え、行動する。
- ・ 友達と協力して、学習や活動に取り組む。
 - ・ 係活動などを通じて、自分の役割と責任があることを理解する。

自立と社会参加に向けて

進路を主体的に選択し、決定するための力の基盤となります。

職場や地域の人々と良好なコミュニケーションを図る基盤となります。

職場や地域・家庭において自らに求められている役割を理解し、責任を果たす力の基盤となります。

保護者との連携と進学先への引継ぎ

キャリア教育の充実に向けては、家庭との連携や学校間の連携が重要です。

家庭との連携により習慣化しましょう。

- ・ お手伝いをする。
- ・ 身の回りのことは自分で行う。
- ・ 家族や近所の人に挨拶をする。
- ・ 規則正しい生活をする。

小学校段階から、生活年齢や発達段階等に応じたキャリア教育を行い、「個別の教育支援計画（学校生活支援シート）」を活用して、指導の成果や手だてを「次へ」引継いでいきましょう。

「わく (Work) わく (Work) Week Tokyo (中学生の職場体験)」 発表会 が開催されます。

職場体験の活動 は、キャリア教育を推進する上で重要な取組の一つです。

東京都では、望ましい社会性や勤労観・職業観を育成するため、平成 17 年度から、都内公立中学校等において5日間程度の職場体験を実施することを推進してきました。現在、都内全ての公立中学校等において、職場体験が行われています。

取組の開始から 10 年目の節目 を迎えた今年度の発表会では、受入協力事業所、中学校・高等学校の教員、職場体験経験者等がディスカッションを行い、「人生において、中学校で職場体験を行うことの意味」について、皆さんと一緒に考えます。



日時 平成 27 年 1 月 16 日 (金)
午後 2 時から午後 4 時 30 分まで
(午後 1 時 30 分受付開始)

場所 新宿区^{つのはず}角筈区民ホール (右図参照)

内容

- ・「中学生の職場体験」功勞事業者等感謝状贈呈
- ・ディスカッション
『これまでの成果とこれからの体験の在り方』
- ・講演
『社会全体で行うキャリア教育』
(内容は予定)

参加者 教育関係者 (教員・教育委員会)
保護者
受入協力事業所関係者
都民の方 等

学校の先生方は、**区市町村教育委員会**を通してお申込みください。

保護者の方、都民の方等は、事前のお申し込みは不要です。当日直接会場にお越しください。

角筈区民ホール



交通案内 (京王バス) 新宿駅西口から
(京王デパート前21番バスのりば)
新都心循環バス「パークハイアット東京前」下車
(京王デパート前20番バスのりば)
中野駅行又は中野車庫行「十二社池の上」下車
(京王線) 「初台駅」より徒歩10分
(地下鉄) 大江戸線「都庁前」A5出口より徒歩10分

住所 新宿区西新宿4丁目33番7号

受入事業所を拡充させたり体験内容を更に質の高いものにしたりしていくことで、中学生の職場体験がより一層充実した取組となります。

学校、地域や保護者、そして事業者がそれぞれどのような役割を果たしていけばよいのか、発表会で一緒に考えましょう。



◆お問い合わせは…

東京都青少年・治安対策本部総合対策部青少年課 電話 03 - 5388 - 3187 (直通)

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 電話 03 - 5320 - 6841 (直通)